

B5頁	場-No.	役名	台詞	
1-16	1-298	Philip	急いで。ー	7/3
1-17	1-299	Philip	でも本当に……	7/3
	1-300	Oliver	何かすごく……	7/3
	1-301	Philip	お先に。ー	7/3
	1-302	Oliver	いや、どうぞ……	7/3
	1-303	Philip	うん、本当にね、この仕事、シルヴィアにはすごく大切なんだ。すごく楽しんでるよ、君との仕事を。	7/3
1-21	1-365	Sylvia	それだけ。ー	7/3
2-16	2-228	Oliver	君の場合はちがう。君の場合は愛なんだ。	7/3
			間←追加	7/3
	2-229	Philip	俺にうそをついた。	7/3
3-10	3-158	Sylvia	病気。そう呼ぶことに決めたでしょう？ わたしの病気。	7/3
			間。←追加	7/3
	3-159	Philip	話はすんだ？	7/3
6-2	6-13	PETER	俺はこう思ってるわけ、押せ押せで行こうぜ、こわいもんなんてない、結局みんな人間なんだし、結婚とかしなくていいじゃんよって。いまこそガキンチョどもに言ってやらないと、そういうので興奮してもオッケーだぜ、ゲイってクールだろとか、自分のなかのホモフォビアとガッツリ向き合え、乗り越えろとか。そこで記事にしたいのが、ゲイのセックス・ライフ、細かいことはいいからざっくりと？ 公共の場所でのセックスとかそういうの、読者がちよつとうらやむようなさ、たとえば、そうだな、公園や公衆トイレに足を踏み入れるて ごらんみよう 、昼でも夜でもいつでもいい、そしたらそこには超かわいい女の子が勢ぞろい、ただハメてもらうのを待っている、どうだこれってすげーだろ君たち？ みたいなさ。ゲイのセックス・ライフをストレートの男たちに。	7/3
6-3	6-17	PETER	基本的に俺が言ってんのは、俺のビジネスがと社会にとって正しいこと が と両立できれば、それはいいことなわけ。なかでもバリアをぶち破るっていうのは超大事。おたくらそれに超ふさわしいから。	7/3
9-6	9-74	DOCTOR	ほかにはありませんね？	7/3
	9-75	Philip	ええ。ええ、ありません。ー	7/3
	10-1	Sylvia	で、バスに乗ってら、一人ブロンドの女の子がね、十五歳くらいで、おっかなくて熱烈なフエントラに囲まれて、その子でっかい声で二言目には「ゲイ」って言うの。それってゲイ、あれってゲイ、何もかもゲイ。その歌ゲイだわー、あのドラマってゲイだわー、このサントイッチ、ゲイだわー。だからわたしちよびつと勇気を出して振り向いて、高圧的にならないよう言ったの、「すみません……」	7/3
10-1	10-2	Oliver	申し訳ありません。ー	7/3
	10-3	Sylvia	申し訳ありません、でもお願いします、そういう文脈で「ゲイ」って言葉を使わないでくださいますか……	7/3
	10-4	Oliver	ゲイ、イコール、ダサい。ー	7/3
	10-5	Sylvia	せめてよく考えてからにしてください、あなたにはちよつとわからないのかもしれないけど、傷つく人が大勢いるしわたしも不愉快です。ー	7/3
	10-6	Oliver	よく刺し殺されなかったね？	7/3
	10-22	Philip	下のほうまで響いてたよ。あっちのほうまで響いてたよ	7/3
10-3	10-41	Oliver	彼女が知るべきはそれで十分。それだけわかればお腹いっぱい。	7/3
	10-47	Sylvia	マリオに愛されながら思うのね……この愛から何か生まれるとしたら……この愛がそういうかたちで実を結ぶとしたら、だったらその覚悟はできてるし、それは素晴らしいことだ、てゆーか、幸運でしょ、贈りものだもん。神様からの。命って。何でもいいけど。ー	7/3
	10-49	Sylvia	でもそうならなくても、てゆーか、授からなくても、授からないことになったとしてもかまわない。いまわたしたちが手にしてるもので十分、ってこと。	7/3
10-5	10-61	Oliver	手術は成功。僕の腕はあんたの腰から切除されました。ー	7/3
	10-62	Sylvia	せいせいした。ー	7/3
	10-69	Oliver	ああ、そのあの聞いたか。	7/3
10-6			長い間。二人公園を見渡す。同時に話し始める。ー	7/3
	10-75	Oliver	僕まさか――	7/3
	10-76	Philip	君もう――	7/3
	10-77	Oliver	ごめん。ー	7/3
	10-78	Philip	ううん。何？	7/3
	10-79	Oliver	先、どうぞ。ー	7/3
	10-80	Philip	いい。君から。ー	7/3
	10-97	Oliver	たしかに。イルカは年じゅう自閉症の子供と泳いでる。でもイルカを除けば殺し合いばかりしてる。でも一つだけ、つまり、ただ一つだけ僕らを区別してるもの、僕らをちがうものに、僕らを人間にしているもの、それは、僕らが発見しつつあるこの力、浸透させなきゃならないこと、何をするにも愛を込めて、愛を与えるってこと。そして何かしらのリスペクト。僕らにはそれしかない。互いに耳を傾けること。	7/3

10-8	10-100	Oliver	僕らが出会った夜のこと。あのパレスチナの女性のこと話してくれた。君が写真に撮った人。彼女の立場に身を君の置く力。本物だった。	7/3
10-12	10-182	Sylvia	わたしがつぎに目を覚ますのは、 わたしがつぎに目を覚ましたら旅立ちのとき。あなたはきっとまだ眠ってる。その額にわたしはキスをして静かに歩き出す。いままでのあなたを責めることはできない。あなたは恐怖のとりこだった。ひたすら現実ですがりつくしかなかったの、そしてすがりついたものはみんなその手のなかで死んでしまった。 産みの苦しみ——あなたはそんな痛みに耐えながら、変わりゆく現実にしがみつく。そしてわたしにできるのは遠くからささやくことだけ——心配はいらない、心配はいらない、心配はいらない。	7/3